

緑の芝 気持ちいい!

甲子園での初練習

サイレンとともにグラウンドに飛び出した。



野球部員たちを乗せたバスは午後1時過ぎに西宮市の阪神甲子園球場に到着した。何人かの部員たちは到着時、駐車場待ち受けていた新聞部員に大きく手を振ってくれた。車内は、これからの練習に対する期待の表情にあふれていた。

彦根東高校に割り当てられた練習時間は午後3時30分から4時までの30分間。

ちなみにこ



18日に学校を出発した野球部員たちが19日、大会会場の阪神甲子園球場で初めて練習を行った。甲子園名物の「浜風」の中、彼らは甲子園の土の感触を確かめていた。



速報新聞

キマグレ

発行所
彦根東高等学校
新聞部
彦根市金亀町4番7号

ノックを打つ今井先生



練習を取材していた新聞部員は野球部員たちの声がよく響いているように感じたので、一塁を守る主将の新谷直弘君(26)にこのことを伝えてみると、「確かに練習の声はよく響いていた。スタンドが近いので、観客がいたら応援がすごく響くと

の日は他に天理高校や1回戦の相手校である習志野高校も練習を行った。

部員たちはサイレンとともにグラウンドに走り出し、限られた時間のノック、守備練習を行った。



村中先生はノック前に「はしゃぐぞ」と言って練習に臨まれた。

思う」とコメントしてくれた。だが、声の響きは場所によっても違うように、外野では風の音が大きく、声はあまり響かなかったという。監督の今井義尚先生は「このチームの基本である守備を中心にした練習が展開できてよかった。他のチームの練習を見ると、それぞれのチームの目指すものや特徴がわかる。誰もがあこがれる甲子園という舞台を実感して選手たちが普段にはないいい緊張をしている」と練習を終えての感想を語ってくれた。コーチの村中隆之先生は「ノックは気持ちよく、楽しかった。選手たちは普段通りにやっていた」とおっしゃった。江竜康成先生は「練習自体は順調。選手はいい意味で緊張感を持っていて、甲子園に感激しています。自分も感激している。甲子園に立たせてくれた選手に感謝している」と話して下さった。トレーナーの山根寛治先生は「ケガ人も落ち着いてきた。練習の時にケガをしたり、風邪をひいたりしないかが心配事です。気が緩みすぎないように祈るだけです」とおっしゃった。